

2022 アートマイル国際協働学習プロジェクト 報告書

日本学校名 [渋谷区立鉢山中学校] 担当教諭名 [菅原 和義] (1年-3年 97名)

相手国・地域 [インドネシア]

海外学校名 [SMPN 1 Kalijati] 担当教諭名 [Leni Lesnawati]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教科	単元名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	総合的な学習の時間	アートマイルプロジェクト	20
	英語	英語を通じて世界を見直そう	3

■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	共存 ～すべてのいきものための地球～
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	人間と動物たちとの共存、自然と文明社会の共存が、これからの地球にとって重要な課題です。



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> 生徒がSDGsの知識を身に付けることができた。環境問題に関心を持ち、自分でできることを見つけてそれを実践する生徒が増えた。 インドネシアの生徒と交流することにより、異国の文化に触れることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> SDGsについてインドネシアと深く議論することができなかった。日本側の意見の発表と、インドネシア側の意見の発表に終わってしまった。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
<ul style="list-style-type: none"> 世界には絶滅危惧種がたくさん存在することを知った。動植物の種が減少する危機感を身近に感じ、解決策を考えなければならないと、意識的に学習する習慣が身に付いた。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本よりインドネシアの中学生の方が、SDGsに関してより関心を持ち、より熱心に学習していることが分かった。 日本とインドネシアの教育システムの違いを理解することができた。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
調べ学習 テーマ学習	9月	・パワーポイントを用いた学校紹介を作成し、インドネシアに送った。	・2年目ということもあり、パワーポイント作りはスムーズにいった。SDGsに対する意識は高いようであった。	総合2
共有 相手と意見交換	9月 10月	・SDG11と15について、インターネットや本を使って調べ学習をした。 ・個人で調べたことをもとに、グループで話し合い、1つの提案にまとめた。	・SDG11と15について調べることで、持続可能な社会をつくる意義や取り組みを学ぶことができた。	総合6 英語3
融合 メッセージ作成	11月	・3年生がインドネシアと協議したことをもとに、2年生全員がメッセージ・原画案を考えた。	・3年生が行った意見交換を見て、1・2年生はその深い考え、レベルの高い英語力に驚いていた。	総合4
創造 壁画制作	12月	・2学年の生徒全員が原画の案を出し、それを1つにまとめて原画を制作した。引き継いだ1年生が色を付けていった。	・大きなキャンバスに生徒みんなで描くことにより、壁画制作の意味・楽しさを見出していた。	総合4
評価 振り返り 自己評価	1月 ～ 3月	・オンライン意見交換会で考えたことについて、課題を設定し、現状・問題点を調べ、自分で考えたオリジナル解決策を提案・企画した。	・自分で考え、友達の意見を聞き、SDGsが身近な問題であると言っていた。	総合4

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価（5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった）

学習目標・つきたい力	評価	教師がそう感じた場面と理由
異文化・自文化を理解する力	3	・異文化を知ると自国文化の良いところを再認識することができる。まさに、今回がそうであった。
主体的に考え行動する力	3	・SDGsについて、教員が指定していないカテゴリーから課題を選び、解決策を提案する生徒がいた。
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	3	・オンライン交流で自分の意見を述べるとき、さまざまな意見をインターネットで調べて、自分の意見の参考とした。
多様な他者と対話・協働する力 (海外の相手と対話・協働)	3	・完成した壁画を披露したとき、自分たちの絵とインドネシアの絵の融合から、協働学習の大切さを学んだ。
想いを言葉や形にする力 (メッセージ作成・壁画制作)	3	・1・2年生が積極的に壁画制作に参加していた。放課後の時間しか取れなかったにも関わらず、多くの生徒が残って描いてくれた。